

2025.01.28 シニアクラブ Online 会合報告

今回のテーマは「石門心学」^{せきもんしんがく}。徳川8代将軍吉宗の時代(将軍在位 1716-45)庶民の道徳を高めるために流行ったのが「石門心学」です。

今回のテーマの発端は、昨年末に放送されたNHK番組「チコちゃんに叱られる」で「悪玉・善玉ってなに？」との問いかけです。

シニアクラブ便り1月号に「気心」と題して書いた最初の部分でこれについて触れているので、読み直してみてください。江戸時代の戯作者、山東京伝(1761-1816)の著書「心学早染草(しんがくはやそめぐさ)」で「善魂・悪魂」について述べています。

次をご覧ください。<https://note.com/kando00/n/n0518894d43a7>

今年のNHK大河ドラマ「べらぼう」では主人公蔦屋重三郎の話が展開されていますが、山東京伝はこの蔦重を出版元としていくつかの黄表紙を著作しています。時は「田沼時代」、市中の経済は活発化して自由奔放・華美な書籍出版も行われました。そして一転、松平定信の「寛政の改革(1787-93)」でそれらは規制の対象となってしまいます。

石田梅岩(1685-1744)の「石門心学」はその弟子たちを通じて江戸時代に多くの庶民に学ばれており、蔦重・京伝コンビも時代に即した出版を余儀なくされてしまったようです。

日本経営倫理学会(JABES)で企業倫理を研究する平塚直さんから「石田梅岩と石門心学」の紹介とその教えが現代の企業経営にどうかかわっているかについて話をしてもらったこととしました。



・左の石田梅岩に学ぶ「石門心学の経営」は2019年発行の単行本で、その紹介文には【江戸中期の倫理学者石田梅岩は渋沢栄一や稲盛和夫など、後の偉大な経営者にも大きな影響を与えた。梅岩の思想、実績を振り返り、CSR(企業の社会的責任)やESG(環境・社会・ガバナンス)、SDGS(持続可能な開発目標)などの現代の経営にも通じる考え方を解説する。】と書かれています。

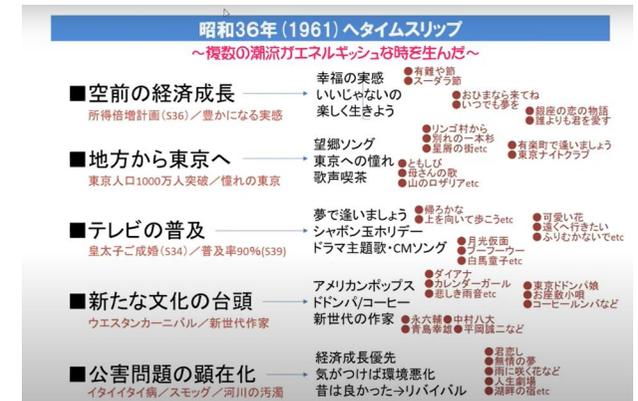
この本は11人の共著であるが、平塚さんはその中の一つの章、江戸時代在野の二人の賢人「石田梅岩と二宮尊徳」を担当して論文を記載。二人はともに小さいころから丁稚奉公に出されて苦労しながら多くのことを学び「世のため人のために働く」と説き、その教えは現代の企業経営者の考えに多く生かされるべきものとしています。

興味ある方はこの本をお買い上げくださいamazonで2,090円で購入できます。(この部分は事務局書き加えです)

・続いて浅見さんのギターで昭和36年(1961年)にタイムスリップして、当時の時代背景の説明を交え懐かしい思い出の歌が紹介されました。

<https://youtu.be/yvqgXzucTSg>

をご覧ください。



・左は葛飾北斎が描いたといわれる漫画「悪魂踊り」です。当時、宴席などでこんな踊りが流行ったのでしょうか。今回は以上です。次回またお会いしましょう。

2025.01.29

JVCKW シニアクラブ事務局長
田代 周